

第2回高岡市教育将来構想検討会議

・日 時 平成30年7月11日(水) 16:00～

・場 所 高岡市役所 本庁舎 802 会議室

教育長：冒頭あいさつ（小中連携・一貫教育の概要、富山市の事例紹介等）

事務局：6月14日付で1名の委員より辞任届を受理している。新たな委員の委嘱については現在検討中としている。

会 長：協議事項1「学校教育小委員会からの報告」について、学校教育小委員会では、これまでタイトなスケジュールの中で協議を重ね、一定のとりまとめができたということである。学校教育小委員会の委員長から報告願いたい。

委 員：資料1に基づいて説明。

委 員：五位中学校区の小学校統合について、地元では3校を同時に統合するということで合意をしていたが、先般、小規模校を先行して統合するという新聞報道があり、地元としては大変驚いていた。地元の関係者からは事前に話をしてほしかったという意見もあった。小委員会の意見を否定するわけではないが、軋轢が生じることも考えられるため、慎重に進めてほしい。

会 長：小委員会の報告では、市民各位の一層のご理解をお願いしたいという一文もある。このためにも地元としてはコミュニケーションをしっかりとってほしいという事務局へのお願いでもある。

委 員：資料にある「子育てや教育の環境が充実し、選ばれるまち」「人口減少期における未来を拓く子どもたち」ということが背景にあって、子育てをするなら教育を受けさせるなら高岡だという風になっていくための取り組みということで期待している。今回、富山市の芝園小学校や中央小学校の取り組みを初めて知ったが、中央小学校では芝のグラウンドがあるということで羨ましいという気持ちがある。五位中学校区で小中一貫教育のモデル校が整備されるということで、高岡市でもそうしたチャレンジが始まるのかと楽しみである。芝園小学校や中央小学校では、統合により設備面やソフト面でメリットは生まれているのか。

事務局：中央小学校の統合の際に教頭や校長をしていた方と先日お話しをする機会があった。その方からは段階的に統合を進めたことで、途中途中で地域の方と情報交換をしながら様々な面で支援をしていただき、大変助かったという話を聞いた。芝園小学校、中学校については一体型をとっているが、基本的には小学校、中学校それぞれで教育という形をとっている。また富山市では、一部学校選択制が導入され、40人程度は芝園中学校に入学できる全市的な枠が設けられており、高岡市との大きな違いといえる。このほか、芝園小学校等の整備については、PFIという民間活力

を活用した手法をとっているのも特徴である。中央小学校については、プールに屋根を設けて屋上に設置する、グラウンドに芝を張るなど、その当時において最も充実した整備がされ、現在もそれを活かしていると思われる。ソフト面に関するメリットについては現在資料がないため、今後聞き取りなどを行いたい。

現在、高岡市は厳しい財政状況であり、財政健全化緊急プログラムの期間中については、大きな投資はできないと考えている。そのような中であっても、学校として一定規模を確保し、教育環境を充実していくためには、再編を進めていかなければならない。そのためにも皆さんの知恵や力をお借りしたい。

委員：人口減少でやむなく再編するというのではなく、五位中学校区で魅力的なハード・ソフトを備えた学校が整備され、あんな素晴らしい教育を受けられるなら再編をやりたいと他の地域に波及していけばよい。ぜひスピード感をもって進めてほしい。

委員：高岡市では昔から学校の統合という話が出ていながら、諸般の事情もあって前に進んでこなかったという経緯がある。今回、五位中学校区において具体的な統合の内容が出てきているが、平成 30 年度から平成 36 年度への児童数の減少、市の厳しい財政状況、子どもへのより良い教育などを踏まえると、単なる数合わせということではないが、他の地域でも進めていく必要がある。先送りにしては厳しい状況がさらに厳しさを増していく。例えば国吉中学校などは、平成 36 年度で生徒数が 60 人、学級数が 3 クラスとなっているが、中学校は教科担任制であり、担任の教師が十分に配置されないという問題も出てくる。このような可哀想な状況にならないためにもスピード感をもって進めていく必要がある。

委員：人口減少下では、再編統合は不可欠であり、これまでも発言してきたが、スピード感が何より大事である。五位中学校区では新しい校舎の建設ということで、厳しい財政状況の中でどのように財源を捻出するのが課題である。これまで校舎の建設や用地の取得にどれだけの費用がかかるかといった資料は見られなかったと思うので、この点も踏まえて説明していく必要がある。また、今年は梅雨明けが早く、校舎の中が大変暑くなっている。これまで PTA からエアコンの設置について話があったかと思うが、再編統合の話が進まないと、それも中々進まないのではないかと思う。富山市でエアコン設置が進めば、高岡市だけが残ってしまう。校舎の建設も大事だと思うが、限られた予算をいかに環境整備にまわすかも大事だと思う。

事務局：財政健全化緊急プログラムにより、財政問題が解消されなければ具体的な取り組みは難しいという認識である。ただ、このような中であっても過小規模の学校、複式学級が増えていくのを放置するわけにはいかない。ご理解をいただきながら取り組ませていただくしかない。エアコン設置については、重々認識しているところである。学校数が集約されれば集中的な投資も可能だが、再編に向けた議論が現在行われ、将来的にその対象となることも見込まれる中で、新たな投資を行うことは誰

が見てもご理解をいただけないと考えている。まずは第一歩として、望ましい規模に適正化し、その上で施設設備の充実を図ってまいりたい。

会 長：報道などでは、財政が一律緊縮なのか、それとも選択と集中なのか、はっきり見えないところもある。現状どのようなになっているのか、分かる範囲で教えてほしい。

事務局：これまでの議会答弁をお伝えさせていただくと、人や産業を育てることについてはメリハリをもって進めたいと市長は発言しており、教育についてもご理解はいただけるものと考えているが、市全体で大きな課題に直面している中で、調和のとれた形で進めていかなければ、市民の皆様のご理解はいただけないと感じている。

委 員：資料を見ると国吉中学校の生徒数が少ないように感じる。石川県では、小規模校がある場合、近隣校に向かうスクールバスを運行するという話を聞いている。どのくらいの数字でそうになっているのか分かれば教えてほしい。また、仮に実施する場合、費用面や地元の理解など色々あるかと思うが、どのような課題が考えられるか。

事務局：国が定める学校規模としては、小学校では12～18学級、中学校では4～6学級が標準だが、石堤小学校は現在5学級、平成32年には4学級となる見込みである。このような状態になると、満足な教員配置ができないという課題が出てくる。教員を補充するためには、市単独で予算措置して非常勤の教員を配置する必要があり、1人あたりの教育費が増加する。教員1人雇用する場合、社会保険料を含めると800万円程度、学校運営については1校あたり約3,000万円程度の費用が年間かかり、10年たてば3億円以上になる。現在、高岡市は40億円の歳出超過があり、これを解消しなければならない。また、1,100億円を超える市債残高を縮小しないと将来世代に多大な負担を強いることになる。持続可能な教育の仕組みを作っていかなければ、後の世代に申し訳ない。これまで10年、20年と時間をかけたが、中々前に進めていない。さらに財政問題が解消した5年、7年、10年後でないと形にならないということであれば、高岡市は何をやっているのか、教育委員会は何もしないのか、となってしまう。皆さんの理解を求めながら、お願いをしていくしかない。

委 員：過小規模の学校を放置すれば、教員の配置という教育環境の面でも、子ども同士の出会いという面でもデメリットしかない。ハコモノを新たに整備するのは予算がかかるので、スクールバスの運行などにより、学校を集約し、規模を大きくして予算を集中させるという対応もあると思う。

会 長：これまで様々なご意見があったが、学校教育小委員会の報告に沿うものであったかと思う。若干の手直しは必要かもしれないが、検討会議全体の方針として進めていきたいと思うがどうか。

事務局：会長でとりまとめていただいたものを事務局が各委員に配付し、ご意見をいただき、会長にお返ししたい。

委 員：小中連携・小中一貫という方針が既に定まっているように感じる。それが良い悪いということではないが、実際にはどうなのか。

事務局：本会議には小中一貫教育の効果的な推進について諮問している。また、総合計画や教育大綱の中でもそうした教育を進めるというスタンスをとっている。教育委員会としては、小中連携や一貫教育を効果的に進めるために、本会議の皆様からご指導を賜りたい。

委員：五位中学校区において具体的な統合の動きがあるが、それ以外の校区でも統合していきたい学校があると思う。その点について、もう少しはっきりとした議論ができるのはいつ頃になるのか。

事務局：五位中学校区における方向性を示していただいた後、今後 10 年間を見据えた学校配置について検討していただき、我々がその素案をもって地域をまわり、いただいたご意見を皆さまにお伝えする。その後、本会議での議論を経て、年度内にとりまとめることとしており、その際は具体的な学校名も検討していただくことになる。

委員：高岡市が厳しい状況にあり、それを解消するための手段となってしまっているような印象がある。再編のあかつきには素晴らしい学校ができる、この 10 年でそのような未来に向かっていきたい、という強いアピールが必要ではないか。父兄の中には小さい学校を別の学校にくっつけることで、市が管理しやすいようにするのだろうという意見もある。それでは本会議での議論が実を結ばない。再編後に充実した教育環境が実現するという夢を示してほしい。

会長：夢や希望が溢れてくるような書きぶりにというご意見である。財政状況を言い訳にするのではなく、子どもたちの教育環境のためという基調で記載する必要がある。

事務局：私どもとしても教育の充実が最も重要だと考えている。再編によって、施設設備が充実し、子どもたちが切磋琢磨できるような環境を目指している。先ほど教員配置の話もあったが、一定の学校規模があることで複数の教員で一人の子どもを見ることができるようになる。さらに小中一貫教育とすることで、中学校の教員が小学生の時点から子どもを見ることができ、逆に小学校の教員は中学校にあがった子どもがどう過ごしているか身近に感じることができる。中学校の教員が指導に迷ったときは、小学校の教員から情報を得て保護者とも連携を取りながら対応することができる。いま ICT、英語教育といったことも重要となっているが、高岡市が他市町村に比べて前を行っているとは思っていない。早く追いつきたいというのが切実な思いである。皆さんから度々批判を受けるエアコン設置についても、条件が整えば取り組んでいきたいと考えている。一定以上の規模がないと施設設備の面でも教育面でも厳しい。児童が野球やバスケットボールなどの団体スポーツをしようとしても 1 つの学校でチームが成立しないという現状もある。そうしたことも含めて解消していきたい。

会長：先ほど申し上げた通り、今回の議論を踏まえて内容を修正し、より前向きな思いが伝わるような答申をさせていただく。

会 長：続いて協議事項２について事務局より説明願いたい。

事務局：資料２に基づいて説明。

委 員：指定管理者がどう赤字を削減してきたのかが見えなかった。指定管理者制度で公募という形をとっているが、実際には外郭団体が指定管理者となっている。まだまだやりようがあるのではないかと感じた。

委 員：使用料は安ければ安いにこしたことはないが、サービスの充実や施設の維持管理に繋がらない。特にスポーツに関して言えば、スポーツ少年団の指導者はボランティアで行うのが当たり前という風潮すらある。他の場所では受講料等を支払っていると思うが、本質的には同じはずである。受益者負担という感覚を皆が持ち、声を上げていかなければならないと思う。

委 員：実際に施設を見て、青年の家はまだまだ使えるという印象である。施設を転用して、今までと異なる団体が施設を管理することで存続したという他市の事例もある。お金はかかるものの、壊すのは簡単であり、もう一度作るのは困難である。耐震化も終えており、どうにか利用する方向で多くの方の知恵を借りていけばよいと思う。

委 員：二上まなび交流館については唯一無二の施設である。20人、30人の子どもたちが仲間と一緒に一泊し、色々な体験をするというのは、小さな子どもにとって大変価値のあることである。青年の家については謡曲の発表会や能などが行われ、文化の継承に繋がっている。文化の継承というものは、損得勘定で行うものではない。先ほど受益者負担という意見もあり、一定の負担はあるべきだと思うが、施設をなくすとなると全く別の話である。社会教育は子どもだけでなく、大人も含まれる。学校教育とはまた違った見方もあるのではないかなと思う。

会 長：予定の時間を過ぎているが、何か他に意見はあるか。

事務局：ご発言いただいていない委員のご意見もお聞きしたい。

委 員：利益云々とは別に優先しなければならない便益がある場合、例えば文化施設や道路の整備などについては行政が行い、それ以外の分野は民間が行うと昔から理解していたが、いつの頃からか、行政も稼ぐ組織という考えが当たり前になってきており、本来どうあるべきなのか分からなくなっている。全体的な方針や姿勢を示さず、一部分だけを切り取って議論しているため、意見がしにくいというのが実情である。小中連携にしても五位の話に終始しており、全体像が見えなかったが、最後に事務局から全体的な話があって得心した。

社会教育小委員会の方の議論については、収支の面から不要だという意見、何か努力をしてから考えるべきだという意見が多く、良いものだから残すべきだという一辺倒な意見が思ったよりなかったと感じている。市がこの緊急的な状況乗り越えないと理想だけ話してもしょうがないと思う。現在の管理者が突き詰めて改善を図るということもあるとは思いますが、例えばもっとやる気のある人に無償で譲

渡する、いいアイデアを持っている人に顧客、市場を広げたような使い方をさせるなど、必ずしも行政が施設を保有する必要はないと思う。解体費が2億円かかるのであれば、それを10年後に発生する費用として、10年間無償で貸与するという不動産運用的な視点があってもよい。子どもへの教育、文化の継承といったことを支えるためにも、経営的な視点が入ってもいいのではないかと思う。

委員：中学校の修学旅行では、京都の能舞台を借りて体験学習するといったこともしているが、地元こんな立派な能舞台があることに驚いた。もっと価値や活用方法を発信していくことが重要だと思う。

委員：全ては施設の魅力に尽きると思う。魅力があればお金を出しても利用する方はいる。学校教育の方でも言えることだが、再編をすればこんな良い学校になるぞという点で戦略的に弱いのではないかと思う。

委員：別の会議の場で、立山青少年自然の家の方がパンフレットをもってPRしに来られていた。子ども限定ではなく、学校、PTA、会社のサークルやお泊り会など何でも使ってほしいとPRしていた。二上まなび交流館でも子どもだけではなく、大人を対象にPRしてはどうか。市では新幹線の利用促進もしているが、中学校の修学旅行での利用をPRしてもよい。

委員：施設を実際に見て、自分たちがもっと勉強し、理解し、自分の考えを持つ努力をすべきであると感じた。

以上